

定例市長記者会見録

日 時：6月25日(木) 午後1時30分～2時00分

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一 宮 市 中野市長、福井副市長、田中副市長

報道機関 朝日新聞、NHK、中部経済新聞、中日新聞、毎日新聞、読売新聞
時事通信

本日の案件は4件です。

1 番目は「《AI 人材育成支援事業》講師：東京大学 松尾・岩澤研究室所属 AI を君たちのチカラにする～1 つのプロンプトから始める「新しい社会」のカタチ～」についてです。

松尾・岩澤研究室（通称：松尾研）と連携して進めていく三本柱の一つです。

小中学校のいじめ対策や市の行政改革も別で進めていますが、今回は若者向けセミナーについて発表します。日付は8月11日（火・祝）で、尾張一宮駅前ビル7階シビックホールにて開催します。松尾研からは二人の講師を派遣していただきます。

セミナーは第1部と第2部に分かれており、第2部に一宮高等学校の鈴木淳子教諭が登壇されます。鈴木教諭は、高校で「情報」の教科を担当されています。もともと教師になる前は企業経験もあり、この分野で大いに活躍されている方です。良い人材とつながることができて、本当によかったと思っています。参加対象は29歳以下の方で、これから募集を始めます。

2 番目は、「三次救急病院が相互協力し医療資源の効率化のため連携します～市民の皆さまに高度急性期医療を継続提供するために～」についてです。

尾張西部二次医療圏で三次救急を担う総合大雄会病院と一宮市立市民病院が、5月25日（月）に協定を締結しました。

連携の目的は、大きく二つあります。一つ目は、限られた医療資源を効率的に活用し、相互に補完することです。二つ目は、医師の過重労働の軽減（働き方改革）への対応です。直面しているこれらの課題に対し、十分な対応ができていない現状があるため、お互いに協力して取り組んでいきます。

救急患者の受け入れについては、情報共有を行うことで、三次救急の効率化を図っていきます。また将来発生し得る大規模災害に備え、今後もさまざまな議論や協議を重ねていきます。

次に、高額医療機器の効率的利用についてです。近年、医療技術の進歩は目覚ましいものの、その分、機器の価格も高額となっています。例えば、手術支援ロボット「ダヴィンチ」は双方で所有していますが、PET 装置（陽電子放射断層撮影装置）については、一宮市立市民病院は持っていません。一宮市立市民病院も競い合って機器を購入するのではなく、今後

は高額医療機器や医療資源をお互いに効率よく融通し合って用いていきます。

次に、医師の働き方改革および過重労働の抑制についてです。生命に直結する三次救急では、患者の受け入れを24時間断らないことが原則です。そのため、医療機関が連携することで、救急医の負担軽減が図れればと考えています。

最後に、両院の電子カルテの相互閲覧についても検討を進めています。ちょうど総合大雄会病院が電子カルテをリニューアルする時期にあたるので、お互いに協力できる余地があるのではないかと考え、話し合いを進めていくことにしています。

こうした連携について、国も後押ししており、診療報酬の加算対象となります。今回、協定を締結することにより、一宮市立市民病院では、月に約100万円の増収を見込んでいます。まずは近隣の総合大雄会病院と一宮市立市民病院がしっかりと連携していきたいと思っています。

3番目は、『BISHU FES. 2026』開催決定！〈BEAMS PLUS〉や地元高校生と挑む「残反」活用プロジェクトを展開」についてです。

3年前、最初に真清田神社でTGC（東京ガールズコレクション）のファッションショーを開催し、大変盛り上がりました。続く一昨年は映画「BISHU」のトークショー、昨年はTGCの審査員を迎えての新規デザイナー発掘プロジェクトを行いました。

今年はBEAMS PLUS（ビームス プラス）と組みます。ビームスは、私も若いころから着用していましたが、現在は当時と比べスタンスを変えられています。我々の世代では、渋谷のアメカジ（アメリカンカジュアル）のように外国からいいものを東京に持ってくるイメージがありました。しかし、現在は、日本の優れたものを世界に発信するスタンスでいろいろな取り組みをさせていただいているようです。

今年のBISHU FES. は、11月7日（土）・8日（日）に開催します。余った生地「残反」を利活用して、一宮高校と修文学院高校の生徒がパッチワークデザインのアイデアを考え、それを基に、BEAMS PLUS が限定商品として形にします。またBEAMS PLUS と地元高校生がそれぞれファッションショーも行います。

4番目は「市長の資産等の公開」についてです。

1年が経って、変わったところもありますが、特段コメントすることはありません。

以上、私からの資料説明となります。

質疑応答

■《AI 人材育成支援事業》講師：東京大学 松尾・岩澤研究室所属

AI を君たちのチカラにする～1つのプロンプトから始める「新しい社会」のカタチ～
（記者）若い方が対象とのことですが、どのような広報の仕方を考えていますか？

(市長) 高校生や大学生をメインターゲットとして捉えています。

(職員) これからになりますが、市内の高校だけでなく、愛知・岐阜県内の大学、特に AI やデータサイエンス関係を学べる大学を中心に PR をしていくところです。

■三次救急病院が相互協力し医療資源の効率化のため連携します

～市民の皆さまに高度急性期医療を継続提供するために～

(記者) 病院の連携について、近隣の実施状況はどうなっていますか？

(市長) 当院は、尾張西部二次医療圏の病院と連携を進めています。

(職員) 近隣の小牧市民病院や春日井市民病院で検討の動きがみられますが、具体的な進捗状況については把握していません。

(記者) 協定締結の狙いと今後の見通しは？

(職員) 診療報酬の加算を受ける上で、厚生労働省に明確な意思を示すために協定書を交わしました。一宮市立市民病院は、これまでに総合大雄会病院のほか、稲沢市民病院、稲沢厚生病院とも協定を締結しました。今後も他の病院と取り交わす予定です。

(記者) 三次救急病院同士の連携は他の地域でもよくある事例ですか？

(職員) 協定を締結した事例は、調査した限りでは確認できませんでした。三次救急病院同士はライバル関係と捉えがちですが、この先の地域医療の提供を考えたときに、ライバルではあるが協力体制を構築する必要があるという両院長の強い思いから、今回協定を結びました。

■市長の資産等の公開

(記者) 同じ面積なのに、課税標準額が上がっているのはなぜですか？

(市長) 借り手が住宅利用から一部商業利用へ使い道を変えたためです。

(記者) 地価上昇など周辺環境の変化が影響している訳ではないのですか？

(市長) 違います。

(記者) 用途変更は市長も了解していますか？

(市長) そうです。